

(社) 日本医師会

1. 学会の会員構成等

日本医師会会員数：164,254名

小児科：9,401名

心療内科：691名

精神神経科：1,730名

精神科：4,508名

神経科：233名

(主たる診療科：平成18年12月31日現在)

2. これまでの取り組み

- ・日本医師会生涯教育カリキュラムの医学的課題に、乳児・小児・青年期の精神・心身医学的疾患を収載
- ・母子保健講習会、学校医講習会の開催記録を日医雑誌（7月号別冊）に掲載して全会員に配布（会員数約16万4千人）
- ・母子保健検討委員会、学校保健委員会における検討
2年ごとに諮問、答申
- ・日医雑誌における特集
子どもの心を育む（平成12年5月1日）
育児不安と親子関係（平成13年12月15日）
- ・その他
児童虐待の早期発見と防止マニュアル（平成14年7月）
改訂 保育所・幼稚園園児の保健（平成12年3月）
学校医の手引き（平成16年3月）
学校における健康教育（平成17年作成予定）

3. 平成18年度の取り組み

- ・子ども支援日本医師会宣言（平成18年5月）
母と子に関する医療・保健・福祉環境の整備等を推進し、次世代を担う子どもたちが心身ともに健やかに育つよう、妊娠・出産・子育てに関する「子ども支援日本医師会宣言」を宣言。
宣言は8項目からなり、「8. 政府等関係各方面への協力と働きかけ」の中で、「②子どもの心の診療医を育成するための施策の推進」を掲げている。
- ・学校医講習会（平成19年2月24日）：出席者255名
最近の学校健康教育行政の課題について
健康教育の最近の動向—海外で進む健康促進学校の理念と実践—
学校危機管理と心のケア
青少年のうつ病
- ・母子保健講習会（平成19年2月25日）：出席者 378名
メインテーマ：子ども支援日本医師会宣言の実現を目指して
シンポジウムテーマ：親子が育つ医師会の地域づくり

4. 今後の取り組み

平成19年度の計画

- ・学校医講習会 約300人 テーマ未定
- ・母子保健講習会 約500人 テーマ未定
- ・母子保健検討委員会、学校保健委員会の開催

(社) 日本小児科医会

1. 学会の会員構成等

小児科標榜の医師：6, 428名（平成19年2月末現在）

※「子どもの心対策部」を設置している。

※子どもの心相談医は、一般診療をしながら、心の相談にも応じているので専門医とは少し違うかもしれないが、「子どもの心の診療医」の養成研修コースのモデル（イメージ）から判断すると、実際は専門医に含めるべきと考えた。

(1)一般の小児科医・精神科医	6, 428人
(2)子どもの心の診療を定期的に行っている小児科医・精神科医	1, 070人
(3)子どもの心の診療に専門的に携わる医師	0人

2. 対象疾患領域等

- ・子どもの心の発達から、小児科医が遭遇するであろう子どもの心の疾患

3. これまでの取り組み

- ・平成11年から「子どもの心研修会」を前期・後期合わせて4日間にわたり開催している。

平成15年度の年間受講者：	297人
平成16年度の年間受講者：	663人
平成17年度の年間受講者：	589人
平成18年度の年間受講者：	680人

- ・平成13年からは、思春期の心の問題に焦点を当て、思春期の臨床講習会も年1回開催している。

平成15年度の年間受講者：	163人
平成16年度の年間受講者：	140人
平成17年度の年間受講者：	194人
平成18年度の年間受講者：	128人

- ・小児科医としての経験も考慮して、日本小児科学会の認定医および専門医で、本会の会員であれば研修会に参加できる。

- ・「子どもの心研修会」の4日間を履修した小児科医で、「子どもの心相談医」の登録申請をしたものを認定している。5年ごとの更新手続きには、「子どもの心研修会」の後期再受講が必須である。

平成15年度の年間認定者：	78人
平成16年度の年間認定者：	97人
平成17年度の年間認定者：	103人
平成18年度の年間認定者：	128人

- ・その他に、子どもの心に関する講習会ないし講演会を受講して（1時間2単位）、合計30単位の履修を義務づけている。

- ・カウンセリングの実際研修会は、平成15～16年度は研修のあり方を探るため、参加者を20名に限定して試験的に開催した。

平成17年度で東京においては34名の参加があった。福岡、大阪でも年度内開催予定。（会場運営や研修会の形式で、参加者は未定。）

4. 平成18年度の取り組み

研修会は、受講希望は多いけれど、会場の都合で前期200名、後期400名に制限している。そのためか、「子どもの心相談医」の更新に後期受講が必須であるために更新ができない方もおられ、認定者数が減少してしまった。これは、今後の検討課題となっている。しかし、新規認定者は増加している。

カウンセリングの実際は、予算の都合で3か所しかできなかった。できれば5か所に増やしたいところである。

思春期の臨床講習会は、市民公開フォーラムと同時開催のため、医師の参加が制限されるという感じとなっている。

5. 今後の取り組み

○平成19年度の計画

- ・子どもの心研修会受講者数を300名（地方での開催のため受講者数が少ない見込み）
- ・思春期の臨床講習会受講者数を200名
- ・カウンセリングの実際研修会を5か所で開催
- ・子どもの心相談医を1, 300名に（目標）

○平成20年度の計画

- ・子どもの心研修会受講者数を400名
- ・思春期の臨床講習会受講者数を200名
- ・カウンセリングの実際研修会を5か所で開催
- ・子どもの心相談医を1, 400名に（目標）

○平成21年度の計画

- ・子どもの心研修会受講者数を300名（地方での開催のため受講者数が少ない見込み）
- ・思春期の臨床講習会受講者数を200名
- ・カウンセリングの実際研修会を5か所で開催
- ・子どもの心相談医を1, 450に（目標）

○平成22年度の計画

- ・子どもの心研修会受講者数を400名
- ・思春期の臨床講習会受講者数を200名
- ・カウンセリングの実際研修会を5か所で開催
- ・子どもの心相談医を1, 550名に（目標）

(社) 日本精神科病院協会

1. 学会の会員構成等

1,214名(病院)(平成19年2月末現在)

- (1)一般の精神科医 約1万人
 - (2)子どもの心の診療を定期的に行っている小児科医・精神科医 数百人
 - (3)子どもの心の診療に専門的に携わる医師 数十人
- ※会員病院に属する医師数のため、移動も多く詳細不明。
常勤のみで約1万人とした。
また、専門にしている医師についても、おおよその人数となっている。

2. 対象疾患領域等

- ・子どもの心の発達に及ぼすテレビ視聴、テレビゲームなどの影響
- ・十代の喫煙
- ・飲酒の問題
- ・虐待問題
- ・広範性発達障害
- ・思春期に発症した精神障害

3. これまでの取り組み

- ・厚生労働省補助金事業として3日間の研修をおこなっている
「こころの健康づくり対策」思春期精神保健対策専門研修会
平成15年度の年間受講者：163人
平成16年度の年間受講者：122人
平成17年度の年間受講者：89人
※以上は医師のみの数字である。

この他、コメディカルコースを併設しており

平成15年度 364名
平成16年度 217名
平成17年度 300名

4. 平成18年度の取り組み

- ・厚生労働省補助金事業として
「こころの健康づくり対策」思春期精神保健対策専門研修会
平成18年度の年間受講者医師数：89人
内訳
思春期精神保健対策専門医師コース：46人
医師アドバンスコース(新設)：43人

この他、コメディカルコースには299人が受講した。

さらに平成18年度は「こころの健康づくり対策事業」思春期精神保健・PTSD
合同シンポジウムを開催した
参加者：159人

内訳

医師：65人

コメディカル：94人

5. 今後の取り組み

平成18年度の厚生労働省補助金事業「こころの健康づくり対策」の計画としては、以下の通りであった

○思春期精神保健対策研修会

・医師コース

1) 基礎コース（東京） 100名

2) アドバンスコース（東京） 50名

・コメディカルコース

基礎コース（東京） 200名

（大阪） 200名

・PTSD対策専門研修会

基礎コース（東京） 250～300名

アドバンスコース（東京） 50名

平成19年度以降の内容については、平成19年3月末までに厚生労働省の関係各位と相談の上、協会外委員を含めた企画委員会により決定する

平成19年度では、本検討会との整合性を考えた上で、若干のメニューの変更を考えている

日本小児神経学会

1. 学会の会員構成等

3, 207名

小児科医 : 2, 804名

脳神経外科医 : 76名

精神神経科医 : 33名

うち小児神経科専門医 : 1, 016名 (平成17年12月現在)

(1) 一般の小児科医・精神科医 3, 207人

(2) 子どもの心の診療を定期的に行っている小児科医・精神科医 1, 016人

(3) 子どもの心の診療に専門的に携わる医師 (平成19年4月に数字が出る予定)

2. 対象疾患領域等

精神保健医療福祉に関する法制・制度、経済、管理運営、国際交流など子ども・成人に関係なく関与

○小児神経科専門医研修項目各論Ⅱに含まれる

— 3 周産期脳障害：学習障害、広汎性発達障害などの医療・療育

— 17 精神神経疾患：発達障害、行動上の障害などは小児神経科診療の主要な領域の一つである

・学習障害、知的障害広汎性発達障害 (Rett症候群、自閉症、Asperger障害、など)

・行動、情緒の障害 (多動性障害、チック障害など)

・心因性疾患、抑鬱、強迫性障害など

・不登校 (不登校は身体疾患としての把握もあるために便宜上この項目に入れてある。)

— 18 睡眠障害

3. これまでの取り組み

○小児神経科専門医制度

平成3年～現在：認定者数1, 016人

研修年数5年、基本領域学会の専門医取得が前提で大多数は小児科専門医を有する上にsubspecialtyとして小児神経科専門医資格を取得する。

筆記試験、面接試験、更新制度、研修施設認定などの専門医制度があり、試験には「小児神経科専門医のための到達目標・研修項目」の総論・各論の全てが範囲で、総論では医療倫理、医療経済、症候論、薬理、療育などについての14領域を含み専門医医療の質の保証に努めている。

平成15年度の年間認定者： 121 (更新106、新規15) 人

平成16年度の年間認定者： 127 (更新100、新規27) 人

平成17年度の年間認定者： 183 (更新151、新規29) 人

○発達障害支援のための研修会

・学会理事を中心に平成17年7月に第1回開催。

・初回受講者150名 (小児科医48%、小児神経科医9%、精神科医42%)

・小児神経学セミナー：発達障害等子どもの心関連の研修も含め毎年2泊3日で実施

平成15年度（第33回）の年間受講者： 114人
平成16年度（第34回）の年間受講者： 122人
平成17年度（第35回）の年間受講者： 103人

○学会総会、学会地方会、などによる発達障害関連の学習・研修

平成15年度の年間受講者： 2,672人
平成16年度の年間受講者： 3,001人
平成17年度の年間受講者： 2,790人

4. 平成18年度の取り組み

○医師の養成に関する活動

(1) 研修施設認定

日本小児神経学会は3,192名の学会員を有し、日本小児神経専門医制度を平成3年に発足以来、小児の神経発達にかかわる疾患の診療を専門的に行える医師の養成を行ってきており、試験制度の充実を重ねる中で、平成17年研修施設認定を行った。

(2) 指導責任医認定

研修施設における研修指導責任医を認定した。研修終了証明には指導責任医の承認が必要なシステムにしたことで、研修の質の確保が期待された。これにより、臨床教育体制がより充実したものになることが期待されている。

(3) 診療実績評価法の検討を開始した

臨床研修内容は、指導医評価、自己評価を行う形式で記録される。平成18年度以降は、更新時に臨床業績評価を導入する方向で検討が進められている。

(4) 到達目標・研修項目の改訂第3版（平成18年3月）

○小児神経科専門医全員に、「子どもの心の診療」の実態について調査した（平成19年2月）。

発達障害等の「子どもの心の診療」を専門的に診療する小児科医のsubspecialty集団であることを国民にわかりやすく、アクセスされやすくするために、専門医全員に「子どもの心の診療」についての調査票を送付し、疾患別に日常的に診療している領域についての調査を施行した（平成19年2月）。結果は、日本小児神経学会ホームページ上で公表される。

○子どもの心の診療関連医学会連絡会における各学会協働の活動 研修会開催

※上記施設名、医師名、研修に関する到達目標・研修項目、研修会などの情報は、全て学会ホームページに記載されている（<http://child-neuro-jp.org/>）。

5. 今後の取り組み

○平成19年度の計画

- ・子どもの心の発達講習会の地方での開催拡大（学会地方会が主催）
- ・医療保育教育行政の連携の実践開始（千葉・和歌山）
- ・関連学会との協力体制の確立、一般向けシンポジウムの検証を踏まえた開催
- ・小児神経学セミナーでの実技研修実施、発達障害支援のための研修会サポート
- ・小児神経科専門医に対する研修の実施

○平成20年度の計画

- ・子どもの心の発達講習会に対する検証開始
- ・医療保育教育行政の連携の実践続行（千葉・和歌山）
- ・関連学会との医師向けセミナー共催、一般向けシンポジウムの検証と開催
- ・小児神経学セミナー・発達障害支援のための研修会での研修プログラムの検証

- ・小児神経科専門医に対する研修の検証と実施

○平成21年度の計画

- ・子どもの心の発達講習会の資料、講習方法の再検討
- ・医療保育教育行政の新たなクロストークモデルの創設準備
- ・関連学会との共催セミナー及び一般向けシンポジウムでの新企画の検討
- ・小児神経学セミナー・発達障害支援のための研修会でのプログラムの改訂準備
- ・小児神経科専門医に対する研修を踏まえた生涯教育プログラム策定の準備

○平成22年度の計画

- ・子どもの心の発達健診講習会の資料改訂と新たな方法論の展開
- ・医療保育教育行政の新たなクロストークモデルの実践開始
- ・関連学会との共催セミナー及び一般向けシンポジウムでの新企画導入
- ・小児神経学セミナー・発達障害支援のための研修会でのプログラム改訂
- ・小児神経科専門医に対する研修実践を踏まえた生涯教育プログラムの完成

日本小児精神神経学会

1. 学会の会員構成等

会員数： 1, 021名
医師： 559名
うち小児科： 317名
うち精神科： 111名
合計： 428名

役員： 42名
医師： 34名（平成16年4月）

(1)一般の小児科医・精神科医 約200人(推定)
(2)子どもの心の診療を定期的に行っている小児科医・精神科医 約300人(推定)
(3)子どもの心の診療に専門的に携わる医師 約30人(推定)

2. 対象疾患領域等

発達障害

知的障害、自閉症、アスペルガー障害、学習障害、注意欠陥／多動性障害、境界知能など

摂食障害、虐待、愛着障害、不登校、排泄障害、行動の傷害、行為障害、身体化障害、適応障害、器質性精神障害、外傷性ストレス障害、強迫性障害、トゥレット障害、小児のうつ、社会的養護（施設、里親）、親支援、連携、福祉、発達検査、心理検査、診断、治療、療育 など

3. これまでの取り組み

学会活動内容

- ・学術集会開催（年2回）
- ・機関誌発行（年4回）

学術集会時に企画委員会による教育講演の設定

学会認定研修施設について検討中

○平成15年度

- ・第89回学会 学会企画プログラム
軽度発達障害児の就労支援の実際と課題
- ・第90回学会 学会企画プログラム
特別支援教育

○平成16年度

- ・第91回学会 学会企画プログラム
特別支援教育における学際的にみたコーディネーターの役割

○平成17年度

- ・学会プログラムは行われなかった

※正確な参加人数は不明 年間約200～300名（推定）

集会の内容について

- ・学術集会は年2回（通常6月、11月）
- ・一般演題を募集する。20～30題が集まる。
- ・内容は軽度発達障害に関するものがほとんどである。
- ・また、会長講演、教育講演、シンポジウムなどの内容も軽度発達障害に関することである。

※学会が直接かかわるのは、学会企画プログラムのみであり、教育講演、シンポジウムなどは各会長の企画による。

4. 今後の取り組み

平成18年度以降の計画

○平成17年度は休止していた学会企画プログラムを毎年行う。

- ・年1～2回（学術集会開催時）
- ・受講者100～150名

○日本小児精神神経学会認定研修病院については以下の条件で検討中

(1) 基本的な企画として、以下の基準を満たす医療施設

- ・小児精神神経学会の評議員、理事が常勤スタッフとして居る
- ・子どもの心の診療担当の常勤医師が1名以上居ること
- ・子どもの心の診療の専門外来を週2日以上持っている
- ・臨床心理担当者（常勤・非常勤）が1名以上居る
- ・心の疾患を持つ子どもを病棟で入院治療ができる
- ・常勤医あるいはレジデントによって、研修医を受け入れることが可能である

(2) 各施設から、認定研修機関として登録の企画を満たすことを示す文書と共に、認定の希望を学会事務局に選出し、その上で役員会、常務理事会の承認を得て決定する。

※現在、常務理事会で検討中であるが、14施設が認定研修機関候補としてあがっている。

※小児科医が主体の学会であるため、入院患者について症例数が多く診られる医療機関は14施設のうち2～3施設になるかと思われる。

日本小児心身医学会

1. 学会の会員構成等

785名

小児科医：580名

精神科医：23名 残りは心理士・教員など

- | | |
|--------------------------------|-------|
| (1)一般の小児科医・精神科医 | 約200人 |
| (2)子どもの心の診療を定期的に行っている小児科医・精神科医 | 約300人 |
| (3)子どもの心の診療に専門的に携わる医師 | 約50人 |

2. 対象疾患領域等

- ・心身症（摂食障害など）
- ・不登校
- ・神経症、発達障害など

3. これまでの取り組み

研修会（年1回） 50～200人

○平成15年度 第11回研修会

Ⅰ「子ども虐待のトピック」

Ⅱ「子どもに対する統合的心理療法」

○平成16年度 第14回研修会

「子どもの人権を守るために」

○平成17年度 第15回研修会

「さまざまな問題を抱える子どもを支えるには」

○平成18年度 第16回研修会

「多施設共同研究合同報告会」

イブニングセミナーなど50～100人

（学会独自の専門医は考えていないが、日本小児科学会と日本心身医学会の両学会の専門医を持つ者が一応専門医と考えている）

○平成15年度 第21回学術集会

小児心身医学における治療体性の確立を目指して

○平成16年度 第22回学術集会

小児心身医学における合理性と心の神秘性の融合

○平成17年度 第23回学術集会

地域で育むこどもの心—教育・福祉・保険・医療の連携の下で—

○平成18年度 第24回学術集会

小児心身症と軽度発達障害

平成15年度の年間受講者： 約400人

平成16年度の年間受講者： 約400人

平成17年度の年間受講者： 約500人

平成18年度の年間受講者： 約500人

※年間受講者は、地方会も含めて、研修会を受けた者の合計

4. 平成18年度の取り組み

上記のこれまでの取り組みに記載したもの以外として

1. イブニングセミナーとして「個人情報のお考え方」を精神科医、法曹界の方々も迎えて勉強を行った。
2. 地方会はこれまでの開催地域に加えて、東北地方会が発足した。これで現在は北海道、東北、北陸・東海、関西、中四国、九州・沖縄の6地域となった
3. 起立性調節障害の治療指針が発刊された
4. 不登校の指針もほぼ発刊にこぎつけた

5. 今後の取り組み

～現在の活動～

起立性調節障害、摂食障害、不登校に加え、診療に関する医師の心身の健康性、EBMの蓄積、ホリスティック医学、災害医療の8部門に関して、多施設間での共通認識をもち、診断基準から診療指針の作成を目指した活動を平成14年から順次開始している。

現時点ではアンケート調査の段階から、診療指針の具体的作成の段階まで、各班で異なっているが、指針を作成する前後から研修会を行い、その完成度をめざし、普及と認識の徹底を図っていく予定である。

現在は、上記の「起立性調節障害研究班」の指針発刊に加えて、不登校が平成19年度に発刊され、摂食障害も発刊される予定である。

上に挙げた現在の活動に基づき計画を行う予定

○平成19年度の計画

- ・現在の活動の中で、上記のように不登校と摂食障害に関しての指針を発行し、それに基づく研修会を開く
- ・学会で子どもの心の二次診療担当医のリストアップ作成
- ・子どもの心の研究に関する学術支援研究講習会のビデオ教材の作成

○平成20年度の計画

- ・現在企画中の活動が全て終了する予定

○平成21年度、平成22年度の計画

- ・現時点では未定